



大腿骨近位部骨折の入院期間短縮 多職種連携で周術期管理を実現

社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院は、2015年4月より、大腿骨近位部骨折の24時間以内の手術実施に取り組んでいる。多職種が連携することで、術前管理から退院後の二次骨折予防まで包括的なサポートを行っている。

多職種連携WGのメンバー。右から3番目が岸田俊二整形外科部長

自院の新たな強みとして「24時間以内の手術」を目標に

2004年3月に国から経営移譲されて以来、千葉県佐倉市の急性期医療を支え続けている社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷佐倉市民病院。

15年4月に入職した同院の岸田俊二整形外科部長は、大規模な急性期病院が周囲に林立するなか、今後同院が生き残っていくためには、特徴となる「強み」が必要だと考えた。そして整形外科医として貢献できることを考えた結果、たどり着いたのが、大腿骨近位部骨折の入院期間短縮をめざした早期手術対応だった。

大腿骨近位部骨折の国際的な診療ガイドラインでは、早期手術の実施が患者の早期回復につながることから、48時間以内の手術が推奨されているものの、実際に国内で実践できている医療機関は少ない。しかし、同院では14年より「骨粗鬆症リエゾンサービス委員会」を立ち上げ、整形外科医・看護師・PT・管理栄養士・薬剤師・事務職が連携し、二次骨折予防の取り組みを実践していたことから、岸

田部長は多職種連携ができる文化が根付いていると確信。48時間よりもさらに厳しい「24時間以内の手術実施」を目標に掲げ、院内を巻き込んでいった。

まず、始めに着手したのが手術機材についての契約見直し。これまで人工骨頭置換術や骨接合術などの手術機器は、手術が決まってから1日単位でレンタルしていたが、いつでも手術できるように年間契約に変更した。事務職の間が減るうえ、結果的に年間約50万円の経費節減にもつながった。また、過去に血液型がわからずに手術を開始できないことがあったため、検査科に迅速に検査結果を出せるよう依頼。16年度からは、老年病専門医の資格を持つ同院の山内伸章医師に協力を仰ぎ、内科的な既往歴から高齢者の手術リスクを適切に評価できるようにした。今では、山内医師が所属する腎臓内科が既往歴の評価と術後管理を担っている。そのほか、病棟や外来のスタッフにも繰り返し周知し、近隣の開業医にも啓発活動を行った。

これらの取り組みが奏功し、15年度は同骨折全99例のうち、58例



多職種が一堂に会する合同カンファレンスも定期的に開かれている

で24時間以内の手術を達成。併せて、同骨折の平均手術待機日数も14年度の約5・5日から約2・6日と半分以下になった。

16年度においては、10月末までの半年間で、47例中37例と8割近くで早期手術を行っており、体制の運用に磨きがかかっている。

「今では同骨折の患者さんの入院がある」と、すぐに手術室から『今日手術しますか』と打診がくるようになりました。次の課題は、退院支援です。早期介入の結果、以前よりも早く患者さんの容態が安定するようになってきているので、地域連携を強化して、平均在院日数の低下につなげていきたいです

ね」と岸田部長は意欲を見せる。

せん妄や誤嚥性肺炎の対策 術後患者のトータルケアをめざす

骨折患者の早期手術体制を整備してきた同院では、16年8月から「患者トータルケアの実現」を合言葉に、より広域な多職種連携に取り組んでいる。

「早期手術の体制が形になってきたため、周術期管理を追求して、患者さんが一日でも早く社会復帰できる体制を院内全体でつくっていきたい」と思いがありました。と岸田部長は話す。

そこで、岸田部長は整形外科・医・腎臓内科医・看護師・薬剤師・PT・MSWなどからなる「多職種連携ワーキンググループ（WG）」を発足。毎朝7時45分から始まる整形外科カンファレンスに持ち回りで多職種が参加することを決めた。PTの池田陽香さんは、「これまでは発熱など患者さんの容態によって、リハビリを行うべきか迷うこともありました。WGができてから、医師や看護師との情報共有が進み、判断基準も明確になりました。今では手術後翌日までリハビリを行うことが部内

でも共通認識になっていきます」と笑顔を見せる。退院後は冒頭に述べた骨粗鬆症リエゾンサービスタに働きかけるなど、予防事業へのパイプも整えている。

12月からは同骨折の入院患者へのせん妄対策も開始。クリニカルパスを作成し、入院24時間以内・3日・1週間と、段階ごとにせん妄かどうか判断。せん妄の場合は薬剤師が介入し、せん妄でない時には予防ケアを看護師が行う。「行動レベルごとに具体的なケア方法を網羅したほか、評価漏れが起こらないようにチェックリストの内容も精査しました」とパ

作成に携わった宮崎木の実病棟看護課長・森千賀病棟係長は話す。今後は、せん妄に並んで術後患者の発症が多い、誤嚥性肺炎について、耳鼻科医・ST・管理栄養士と協力しながらNSTでの介入を検討していく方針だ。

大腿骨近位部骨折患者の入院期間短縮をめざし、多職種連携を進めてきた同院。

「当院の連携体制はまだまだ始まったばかりです。経営面としては、多職種介入による入院単価向上、早期手術による平均在院日数の短縮が数年後に実績として表れるよう、さらに体制を強化していきたいです」（岸田部長）

社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院

1874年、東京鎮台佐倉
営所病院として開設。
2004年3月より聖隷福
祉事業団へ経営移譲。聖
隷佐倉市民病院と名称を
改め、千葉県佐倉市の急性期医療を支えている。



住所：〒285-8765
千葉県佐倉市江原台2-36-2
TEL：043-486-1151
URL：http://www.seirei.or.jp/sakura/
病床数：304床

診療科：総合内科、腎臓内科、透析センター、消化器内科、内分泌代謝科、循環器科、神経内科、呼吸器内科、メンタルヘルス科、和漢診療科、緩和医療科、小児科、外科、内視鏡センター、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、側弯症外来、形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線科、麻酔科、病理科、美容外科

職員数：750人（常勤医56人）
平均在院日数：約15.2日